

# 井戸端だより

第15号

発行日

96.10.1

発行

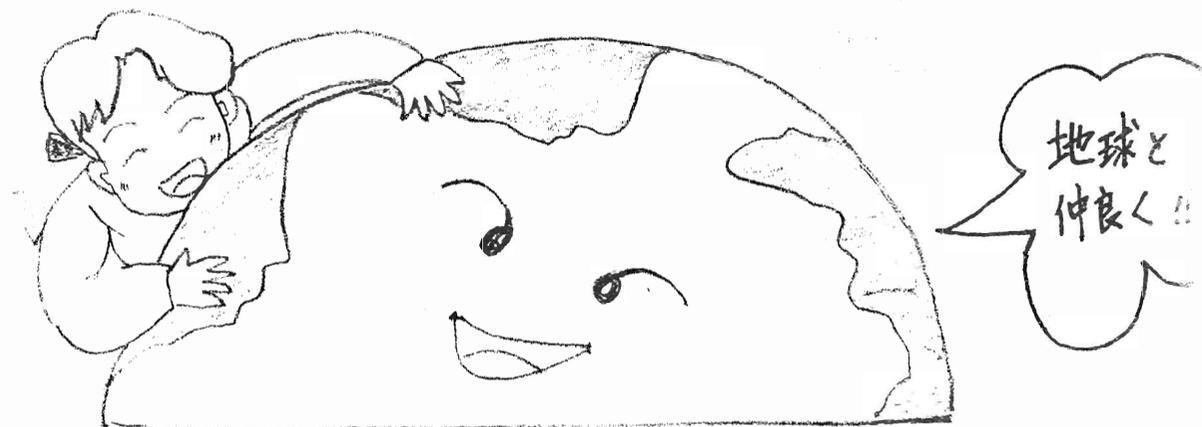
くらしの学習会

秋風が心地よい季節となってきました。運動会に遠足にと戸外で活動することが多い今日この頃ですがいかがお過ごしですか。

さて、このたび重信町は町制40周年を記念して絵葉書を作り、各戸に配布しました。町下の景観を、重信八景と題して絵葉書にしたものです。その中に、なんと三カ村泉が入っているのです。私達の活動の成果がここに現れたのでは・・・などと内心にんまりとしている会員もいることと思います。何を隠そう私もその一人です。町のこの泉に対する積極的な姿勢を大いに評価したいと思います。今後、この泉がその豊かな自然をできるだけ維持できるような方法で整備されるの見守って行きたいと思います。ところで、私達がこの泉の保全を呼びかけ作製販売した絵葉書2000部が全部残らず売り切れしました。今回は、その売上最終報告も載せましたので、ご覧下さい。

学習会の前代表で言語療法士として再就職を果たされた丸井さんから長編の手記が届きました。高知でも生き生きと活躍されている様子が手に取るようにわかりますね。

9月は、広報などでもたびたび記事になっているゴミ問題について、町の改組で新しくできた環境整備課の加藤課長のお話をうかがう機会を得ました。ゴミ問題は絶対これだという方法の見つからない本当に難しい問題であることをつくづく思い知らされました。しかし、今何かをしなければ・・・危機はそこまで迫っていることを実感しました。消費者として、町民として、主婦として一体何ができるのか、何をしなければならないのかを私達なりに真剣に考えたいと思います。(T・H)



考えよう!!

考えよう!!

# 私たちと地球の未来のために

9月12日(木)町民会館に於いて、町役場環境保全課 加藤課長、担当職員の方を迎えて、平成9年4月より実施される可燃ごみの『指定ごみ袋制導入』についての経過報告を聞き、参加者による質問や意見交換を行いました。

まず、『指定ごみ袋制導入』理由として

## 1 他町とのごみの区別をする

低密度ポリエチレン製で、袋への印刷の色を変えることにより他町との差別化を図る。

## 2 環境負荷(ごみの量)の軽減を図る

各戸 1年分 100枚を無料配布。(町税でまかなっているので決して無料ではない。)

3人以上世帯 50L袋・3人未満世帯 30L袋を配布する予定。

## 3 ごみ処理費用の公平な負担を図る(従量制導入)

無料配布以上必要分は町内のスーパー・商店で購入(ごみ処理費に見合った価格設定を予定している。)

## 4 ごみ処理作業の安全性を確保し、ごみ処理費用の軽減を図る

外から見て中身がわかるので安全性が高まる。

ごみの量が減れば、年間1500万円位かかるごみ処理費用が軽減される。

## 5 ごみに対する意識の高揚を図る

記名制導入(各戸が責任を持ってごみ排出し、スムーズに回収する為)

ルール違反(可燃ごみ以外の混入など)には違反ステッカーを貼り収集しない。

以上の項目は、「ゴミ問題懇談会」・「アンケート調査」等を実施し、「廃棄物処理検討委員会」を設置して決定されました。

来年4月完全実施に向けて、今年10月から11月頃より『指定ごみ袋制』本格試行を予定しているそうです。

つぎに、参加者による質問や意見交換の内容として、

\*中身が透けて見えるので、プライバシー保護や、生ごみの水分対策の為に「内袋」を検討中との事です。

<参加者の意見>

生ごみの水分をきちんと切っておけば新聞紙で間に合うのでは。

プライバシー保護も新聞紙などで包むなどの対処をすれば良いのでは。

Q ごみの減量の為に家庭でごみを燃やす人が増えると思うので、小型焼却炉を斡旋してはどうか?

A 焼却温度によってダイオキシンが発生するし、小型焼却炉にもダイオキシン対策のできる物は無いので、ごみとして排出したほうが環境負荷が小さいのでは。その為には、家庭内でのごみの減量化が不可欠となる。

Q ごみの有料化を考えるうえで、1枚目から指定袋を買った方がよいのでは?

A 啓蒙を継続し町民の意識を高めながら、無料→有料に移行していけば良いのでは。

- Q スーパーの袋はごみ袋として利用できなくなるので、町内のスーパー・商店等に買物袋持参運動をすすめるのはどうか？
- A 商工会を通じて、ふくろの素材変更を願っているとのこと。是非、買物袋持参運動を検討してもらいたい。
- 等、紙面に書き切れない程、活発な意見が出されました。

ただ、容器包装リサイクル法をうけて、現在、「燃えないごみ」として収集しているペットボトル・アルミ・スチール缶・びん類等の容器包装については、可燃ごみの『指定ごみ袋導入』実施後、じょじょに分別収集をしていく予定とのことでした。

県内でも来年4月より(かなり以前より実施している自治体も多いが)分別の細分化を実施する自治体が多いなかで一歩出おくれってしまった訳で、大切な資源をリサイクルしやすくする為に、一日も早く分別の細分化を実施できる体制作りに着手してもらいたいとおもいます。(A・M)

### 『指定ゴミ袋』導入についての説明会に参加して

今回、来年3月からの指定ゴミ袋導入にあたって、9月12日に町による説明会が持たれました。

確かに、ゴミ削減という点からも、ゴミ捨てマナーの改善・向上という点からも、我が町でも半透明の指定ゴミ袋の導入は必要な事であると思います。

ただ、現在の“ゴミ”の実情を考える時、指定ゴミ袋の導入以前の問題が懸念されます。例えば我が家の様に、近くにゴミ置き場があるために思わぬ苦勞を強いられている家庭が、現段階でも少なくありません。

我が家の場合ゴミは、組で決まったゴミ置き場に出しております。これは、我が家とお隣のお宅の間の、表に面した道路の脇です。ところがここ数年、我が家の裏に新しくできた2棟のマンションの住人の方々が、知らない間に我が家の裏木戸辺りをゴミ置き場として利用されているのです。そのどちらのマンションにも、指定のゴミ置き場はないようなのですが、だからといって全く無関係な我が家をゴミ置き場にしないで、と正直解せませんでした。

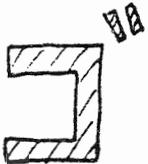
そこで、担当の不動産業者に伺いましたところ、「町の指導で決定した。」  
「当社では入居の斡旋はするが、入居者の管理はしない。」との回答でした。それでも、マナーさえ守って頂けるのなら、としばらく様子を見ておりましたが、祝祭日や年末年始のゴミ収集がお休みの日でもいつも通りのゴミの山、あげく瓶や缶もおかまなし、といった有り様が続きます。町の方をお願いしてその度回収して頂いてはおりますが、決して解決にはなりません。

この様な状態で、指定ゴミ袋が導入されても、徹底されるとは思い難いのです。それで指定以外の袋のゴミは収集して頂けなくなったら、我が家の周りはゴミだらけになってしまう恐れもあります。

重信町もこれだけ“都会化”が進んでくると、“隣近所仲良く話し合い”だけでゴミ置き場を問題なく設置するには、どうしても限界があるように思います。そこで町にぜひお願いしたいことは、「町の方でゴミ置き場を確保して頂きたい」、「収集日やマナーなど、札をたてるなどして徹底指導して頂きたい」、「犬猫に荒らされる被害を防ぐため、ゴミ袋を収納する容器を設置して頂きたい」、そして、「学生など、転入手続きをとらずに重信町に住んでいる人ものいると考えられ、町の公報だけでは充分周知徹底なされない場合もありうるので、町から不動産業者の方へ管理要請・指導するなり、対策を考えて頂きたい。以上が私の切なる願いです。

(K. O.)

ごみ



塵



学習会の皆さま、ご無沙汰していますが、お元気ですか？

高知に来て、早一年を過ぎ、2度目の夏がやってきました。高知の日差しは強烈で、また一段と真っ黒に染まりそうです。

昨年8月から本職に復帰。自転車で5分の伊野町総合健康センターで在宅ケアのスタッフの一員として訪問言語リハビリを始めましたが、この4月からは正式に町の非常勤職員となり、活動も本格的に広がってきました。言語療法は病院においても需要があるもののまだ少なく、また在宅の分野ではほとんど行なわれていません。その意味でもやりがいがあります。

最近、高齢化と介護保健の論議から、にわかに在宅ケアが関心を集めていますが、伊野町（人口約2万5千人）の在宅ケアは質的にも高く充実しており、全国的にも注目されているようですので、今日はその話をするにしましょう。

伊野町の在宅ケアの中核は、総合健康センターという建物のなかにあるのですが、JR線路脇の小さく古ぼけたこの建物のなかで毎日、種々のスタッフが生き生きと議論し、動いているとは想像もできません。ただ少しその分野を知っている人なら、建物横の空き地一杯にずらっと並んだ訪問看護ステーションの車、厚生課や社協とかかれた数台の車やバン、建物脇に揃えられた十数台のバイク、朝と夕方建物の正面に横付けになって待機している3台のリフトカーを見て、「ムム・これはただものではない」と分かるかもしれません。6、7年前、遅れている高齢者の在宅ケアをなんとかしなくてはと開かれた対策会議で、方針のひとつとして採用されたのが、「建物は後で、中身を先に充実させよう」とのことだったそうです。

現在、この健康センターには、訪問看護ステーション（看護婦常勤2人、非常勤3人）、保健婦（6人）、ホームヘルパー（14人）、デイサービスB型（スタッフ7人）、PT（非常勤週3日）、OT（非常勤週1日）、ST（非常勤週3日）、事務員2人という在宅スタッフのほか、社会福祉協議会と医師会がはいっています（その外に在宅ケア活動としては町内20箇所あるミニデイサービスがあります）。狭い建物のなかで色々な専門スタッフがお尻をぶつつけながら働いていますが、この健康センターの特徴は陣容の豊富さとチームワークの良さにあるといえます。

最近では、高齢者対策もそれぞれの地域で充実されつつあり、各地で立派な施設や通所サービス、さらにヘルパーの人員が増えていますが、ともすると中身は本当に「サービスが必要な人に、必要なサービスが行なえているか」疑問のことが多くあります。それらの原因として、各施設やサービスがばらばらなこと、しかもお役所の画一的で融通のきかない仕事ぶり、人材確保の保守性などがあげられると思いますが、幸い伊野町では、それまでにあった町立特別養護老人ホームと広域施設の老人保健施設を除いた、在宅のすべての機関とサービスが一体となったシステムが作り上げられています。

窓口は保健婦に一本化され、県内外の医療機関、要介護者本人・家族、健康相談、ミニデイサービス、民生委員、行政、その他の情報源からの相談・情報がすべて保健婦に入ります。一般に要介護者の実態把握されていない市町村も多く、サービスを受ける実数も少ないところも多くあるようですが、伊野町ではこれまでの保健活動の実績もあって、要介護者の実態は、ほとんどすべて把握されており、しかもサービスが町民に知られているため、利用者も多くあります。保健婦に情報がはいると、保健婦が訪問し、情報收拾し、そ

の結果必要とあれば、適宜各専門スタッフに相談して、可能なサービスを探り、実施します。同時に、月一回4時間程かけて開かれる、行政担当者も交えた全スタッフ参加のカンファレンスで問題点・対策サービスの内容が吟味され、討議されます。情報が全員に共有されるとともに全員の知恵が生かされます。

このカンファレンスは最近では見学者も多いのですが、ヘルパーはじめ全員のスタッフがそれぞれの立場から本音で意見を言うので非常に活発で、驚かれています。研修報告も全員に課せられており、互いに違う専門職種の情報交換の場にもなっており、新人といえども容赦なく発言を求められるので、随分と鍛えられるようです。私も幾度となく言語についてまとまった話をする機会を与えられました。話すことで、他のスタッフの理解も得られ、対象者への対応も変化が見られてきています。行政担当者も型どおりの対処の仕方では済まされません。各スタッフから吊し上げにあいます。「そこをなんとかするのが行政マン・ウーマンの腕のみせどころでしょ」というわけです。各スタッフはそれぞれの部署で毎日、あるいは週1回のミーティングを開いていますが、それ以外にもそれぞれスタッフが廊下や部屋で一人一人の対象となる人のことについて熱心に話す場面がよく見られます。

もうひとつ特徴的なのは、在宅ケアに、単なる「お世話」ではない「地域リハビリテーションの考え方」、「自立への援助」の考え方がしっかり押さえられていることです。そのうえでアプローチする職種、使うサービスや頻度・目標など対象者にあったケアプランが考えられており、各サービスが機能的に組み合わせられて実施されています。皆よく研修にも行き、しかも研究発表もし（させられ）ます。私もその空気に押され、「伊野町の言語障害者の実態と言語療法活動」という演題で5月に高知県リハビリテーション研究会に発表しましたが、運よく最優秀賞と5万円の賞金までもりました。もちろんそのお金を足して皆で飲みに行ったのは言うまでもありません。（それにしても高知の人は男も女もよく飲みますね！！）

話がそれましたが、ここでは「リハビリってなんだろうね？」とか「本人への援助なのそれとも家族の？」「〇〇さんにとって食べるって、生きるってなんなんだろう？」など哲学的議論から具体的な対策までいろんな命題が問い掛けられ、考えることが次々でできます。仕事が面白くってしょうがないという顔をした人が何人も生き生き働いている職場は楽しいものです。逃げ場のない在宅生活は本人や家族も落ち込ませる場合がありますが、スタッフも生身の身、かならずしもいつも思うとおりにいかず、落ち込んだり、あきらめそうになることもあります。そんなとき、別の職種のスタッフが別の角度でまた、元気を持ち込むことがよくあります。これもチームアプローチの良さですね。

こんな風に、怠け者の私も対象者の人や他のスタッフから元気をもらったり、また元気を返したりしながら毎日を過ごしています。もうひとつ元気の元になっているこのあたりの自然についてはまた、今度お便りします。皆様も素敵な仲間とのチームワークで元気にお過ごしください！

1996年7月12日

丸井 美恵子



## 〈三ヶ村泉 自然観察会に参加して〉

9月14日、秋晴れの午後、どこかへ行きたいなあと思っていた時、三ヶ村泉の自然観察会に誘われてきた。子どもと参加しました。この泉に最初に来た時の感動は今もおぼえています。大人も子どももチャボチャボと水に入り、寄ってくる魚やカニと遊びました。この日は白形さんが自然観察の指導をして下さり、石の下に〇〇を置いて魚を集めたり（これは水の流れているところではないとダメ）、プラスチックの弁当箱のふたを水中めがねのかわりに使ったり、町育ちの私には感心することばかりでした。皆帰りほじょほじょ、ほとんど全身ぬぐった人もおりました。楽しい午後をありがとうございました。（K）

### 次回 自然観察会

10月26日（土）

★問合せ先

菊地さん

(Tel) 964-0387

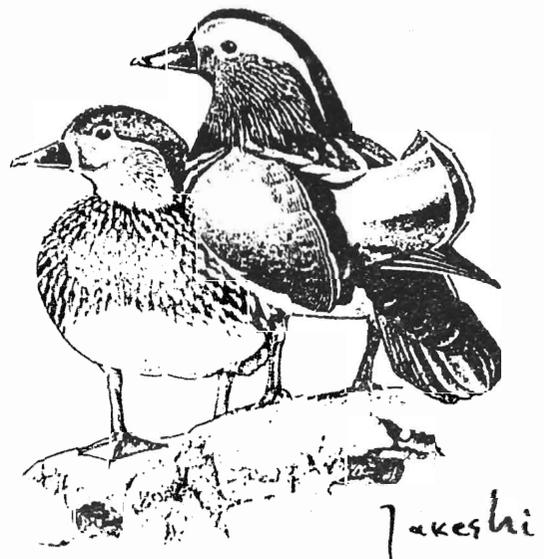
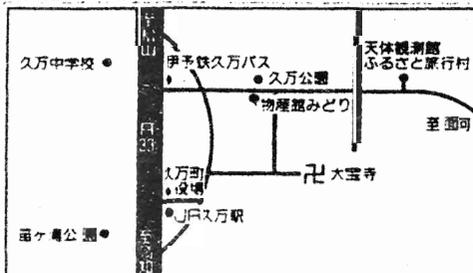
### 展示会のお知らせ

白形毅史 ——— natural ———

絵はがき Birds の原画など  
水彩画を多数展示します。ぜひ  
お越し下さい。

とき 10月19・20・21日  
AM10:00~PM5:00

場所 JR久万駅やまなみ 2F



## 絵葉書売上げ最終報告

収入

中間報告時収益	99,720円
350円×338(組)	118,300円
280円×146(組)	40,880円 (丸三・紀ノ国屋)
300円×10(組)	3,000円 (面河)
カンパ	2,000円
郵便貯金利子	728円

収入合計 264,628円

支出

泉ゴミ拾いジュース代等 4,898円

純益 264,628円 - 4,898円 = 259,730円

尚、絵葉書120部は各方面に寄贈しました。

★ 会では絵ハガキ純益の用途について話し合っています。  
皆様の意見もお寄せ下さい。

### ♡ かつどう♡

9/7 朝日新聞  
今治支所からの取材を受け取る

10/28 例会  
10時より 町民会館 4F

9/27 ★ 出合い 塾 19:30 林宅  
ヒラさんとの出合い  
【カレーの味見  
サリ-に触れる】

12月 出合い 塾  
農業の旅を予定

### ＝ 編集後記 ＝

#### ● 会員募集中

活動会員 2,000円  
購読会員 1,000円 > 年会費

<振込口座番号> 01610-5-210216

問い合わせ 電話 964-6956 林宅

原稿をお寄せ下さった皆様、有難うございました。  
丸井さんからの便利もあり、読みごたえのある  
会報を作る事ができました。  
実りの秋となり食べ物は、又、砂糖の秋となり  
観るものに、自然の恩恵をたより受ける頃です。  
この自然をこれ以上傷つけないために私達  
何ができるか、自分の生活から考えてみたいと思います。  
(R.D.)